

MTS Japan Newsletter

No. 40 February 2018

CONTENTS

OTO' 18 (統一テーマ: Ocean Planet It's our home)	1
OCEANS' 17 Anchorage 視察団報告	2-3
《OCEANS Anchorage 国際会議の概要》《視察団報告: 視察訪問/現地意見交換会》	
MTS Council Meeting 報告	3
MTS 日本支部講演会報告	4-5
○特別セミナー「海洋・宇宙連携の推進による産業振興に向けて」(7/11)	
○OMTS 日本支部講演会: 海上自衛隊および海上保安庁関係の活動紹介 (12/8)	
What's NEW?	
UN Decade of Ocean Science(2021-2030)ほか	5-6
国際会議情報	6
編集メモ	6

OTO'18

(統一テーマ: Ocean Planet It's our home)

○日・米・アジアから基調講演

OCEANS/Techno-Ocean2018(OTO'18)が5月28日から30日の日程でいよいよ開催されます。

5/28(月)は、Tutorial Program のほかは、展示会等の設営準備日で、29日(火)に開会式およびシンポジウムと展示会が本格的にスタートします。オープニングでは、次の3本の基調講演が予定されています。

米国から NOAA の前 Chief Scientist の Richard Spinrad 氏が、アジア・太平洋から台湾の海洋深層水学会長の Jin-Yuan Liu 氏が、日本からは第3期海洋基本計画について内閣府海洋政策総合推進事務局長の羽尾一郎氏からの講演が予定されています。

○論文発表投稿が記録的多数、採択 600 編超!

シンポジウムの論文アブストラクトの投稿を内外に呼び掛けた結果、目標数を大幅に上回る 900 編以上の応募が欧州、アジア・大洋州、中東、北米、中南米、アフリカ、日本から寄せられました。そのうち、査読を経て、600 編超が採択され、近々、セッション・プログラムが発表されます。

○展示会も目標を上回る 100 機関以上、約 170 小間!

展示会も内外から 100 社・団体超の申込で、約 170 小間となりました。これは、前回 2016 年の 144 小間、今回目標 150 小間以上を大きく上回ります。

論文応募数とともに、15 回 30 年の歴史と実績のある Techno-Ocean と OCEANS との同時開催にふさわしい内容となりそうです。

○表彰式、水中ロボコン、JAMSTEC 「かいいい」の一般公開、一般向けプログラムも

期間中には「テクノオーシャン・アワード」、40 才以下の若手研究者を対象にした「海のフロンティアを開く岡村健二賞」の表彰式、アワード・ランチオンも行われます。

また、開催に先んじて、27日(日)には、近接プールで Underwater Robot Competition も開催されるほか、JAMSTEC の深海調査研究船「かいいい」の一般公開、そしてまた、社会人や青少年向けプログラムも行われます。

OTO18 の詳細は下記のホームページをご覧ください。参加登録も受付を開始しています。

<http://www.oceans18mtsieekobe.org/>

Oceans'17 Anchorage 視察団報告

昨年9月18日(月)–21日(木)に、OCEANS'17がアメリカのアラスカ州 Anchorage で開催されました。統一テーマは “Our Harsh and Fragile Ocean”。MTS 日本支部では、恒例により、TON、IEEE/OES 日本支部との三者共催で視察団を編成し、同国際会議に参加しました。

《OCEANS 国際会議の概要》

OCEANS 国際会議は、言うまでもなく、MTS (Marine Technology Society)および IEEE/OES (Institute of Electric and Electronic Engineering / Ocean Engineering Society) が毎年、共催し、数10年の歴史を持つ海洋科学・技術開発、政策、産業など広範な分野を扱う世界的に権威ある国際会議・展示会です。

展示会については、3年前から日本の出展機関がそろってグループ出展して Japan Pavilion としてきましたが、OCEANS' 17 Anchorage でも引き続きグループ出展がなされました。



Japan Pavilion 全景



中央は Donna Kocak MTS 会長
(Techno-Ocean ブースにて)



山内 TON 会長による OTO'18 紹介プレゼン



IEEE/OES International Award の賞状とテーブルに受賞の垂れ幕 (JAMSTEC ブースにて)



OTO' 18 紹介パネルと Flyer
(Exhibition Hall 入口)

《視察団報告》

OCEANS' 17 Anchorage の現地集合・現地解散方式による視察団を編成いたしました。

同視察団としての活動は、「視察訪問」(Technical Visit) と「現地意見交換会」(Town Hall Meeting) ですが、今回は現地の LOC 関係者の推薦等により、次のような企画でした。なお、このほかに、山内・TON 会長を囲んでの会食なども行いました。(写真等、別掲します。)

○視察訪問 (Technical Visit)

アンカレッジから約 50 マイル (約 80km) 離れたところにある NOAA の Tsunami Warning Center (<http://wcawc.arh.noaa.gov/>) を訪問しました。また、Independence Mine State Historical Park にも、併せて、立ち寄ることにいたしました。なお、アンカレッジから距離がありましたので、バス・チャーターにより実施しました。

(<http://dnr.alaska.gov/parks/units/indmine.htm>)



Technical Visit した Tsunami Warning Center



Independence Mine State Historical Park

○現地意見交換会 (Town Hall Meeting)

日本関係等の参加者による「現地交流会」を、19日(火) Exhibitors' Reception の後に開催しました。



山内 TON 会長を囲んで会食

なお、今年の OCEANS' 18 は 10 月 22-25 日に東海岸サウス・キャロライナ州の Charleston で開催されます。(<http://charleston18.oceansconference.org/>)

例年同様に、視察団を編成の予定でご案内を差し上げますので、奮ってご参加ください。

MTS council meeting 報告

OCEANS'17 が米国アラスカ州アンカレッジにおいて 9 月 18 日~21 日の日程で開催され、これにあわせて MTS council Meeting が会議場から少し離れたキャプテンクックホテルで 9 月 18 日 8:30~11:00 の時間帯で開催されました。同会議は Donna Kocak 会長の司会により進められました。

まず MTS の現状に関する報告、計画、会員関係、運営、各理事から報告に引き続き、各専門委員会活動報告、各セクションからの活動報告がありました。

特に新しく開設された海外セクションであるインドからの報告が注目を集めました。インドにおける産業界と研究機関の連携状況、若手育成などに関する活動内容が報告されました。この活動結果を受け特筆すべきセクション活動に対して与えられる MTS Outstanding Section Award がインドセクションに与えられることが決定されました。

MTS 日本支部講演会報告

(1) 特別セミナー「海洋・宇宙連携の推進による産業振興に向けて」(7/11 開催)

昨年7月11日(火)13:30-17:00に東京・虎の門の笹川平和財団ビル11階国際会議場にて、(一社)海洋産業研究会との共催で、標記の特別セミナーを開催しました。

MTS-Jとしては海洋と宇宙の連携は重要な取り組みと考えており、一昨年10月に開催された特別セミナーに引き続いての開催でした。前回は、初めて、行政サイドから、内閣官房総合海洋政策本部事務局(現内閣府総合海洋政策推進事務局)と、内閣府宇宙開発戦略推進事務局から一緒に登壇していただきました。今回は、同様に内閣府の海洋・宇宙の両事務局からの再度の登壇のほか、産業振興の視点を一層推し進める狙いから、経団連の海洋開発推進委員会及び宇宙開発利用推進委員会の関係者にも登壇していただき、行政および産業界の双方から講演をいただきました。これは画期的なことと言えるでしょう。

実際、関係官庁、報道関係も含めて、150名を超える参加者があり、非常な成功を収めました。

《当日のプログラム》

◆基調講演「海洋分野における宇宙利用—未来情報サービスの豊かな未来」山形俊男・東大名誉教授

◆話題提供

- ・「宇宙と連携した海洋情報の産業利活用の可能性」長澤仁志・経団連海洋開発推進委員会総合部会長
- ・「宇宙システム利用の現状と海洋との連携への期待」麻生紀子・経団連宇宙開発利用推進委員会
- ・「海洋・宇宙連携による産業振興に向けた提言」廣野康平・神戸大学准教授/日本海洋政策学会海洋・宇宙連携課題研究グループファシリテーター

◆パネルディスカッション

コーディネーター：北川弘光・笹川平和財団客員研究員)

◇ミニプレゼン(1)「海洋基本計画における海洋・

宇宙連携」木下秀樹・内閣府総合海洋政策推進事務局参事官

◇ミニプレゼン(2)「宇宙産業ビジョン2030～第4次産業革命下の宇宙利用創造～」高倉秀和・内閣府宇宙開発戦略推進事務局参事官

◇パネリストプレゼン

- ー泉 史郎・(株)商船三井技術部LNG船プロジェクト第二グループマネジャー
- ー越智正昭・(株)ハレックス代表取締役社長
- ー大島達樹・(国研)水産研究・教育機構開発調査センター浮魚類開発調査グループGL
- ー関本恒浩・五洋建設(株)執行役員技術研究所担当

(2) MTS 日本支部講演会：海上自衛隊及び海上保安庁関係の活動等の紹介(12/8 開催)

昨年12月8日(金)14:00-17:00に西新橋・田中田村町ビルにおいて、海上保安庁および海上自衛隊の海洋関連活動の紹介を目的として支部講演会を開催しました。

最初に、海洋観測艦3隻等を有する海上自衛隊の海洋調査部門である海洋業務・対潜支援群の活動概要についてご紹介いただきました。続いて、EEZの総合的管理に関連して、尖閣沖中国漁船衝突事件の現場の状況等を踏まえて、当時の第十管区海上保安本部長に臨場感のある体験談を交えつつ分かりやすくお話をしていただきました。いずれの話題も直接伺う機会が必ずしも多くない貴重な内容でした。

《当日のプログラム》

- 「海上自衛隊の海洋観測活動について～海洋業務・対潜支援群の概要～」
 - ・・・海上自衛隊海洋業務・対潜支援群海洋観測艦「しょうなん」航海長、1等海尉 垣内 陽氏
- 「海洋における国家の管轄権行使と危機管理について—北朝鮮工作船事件、尖閣諸島沖中国漁船衝突事件など—」
 - ・・・元海上保安庁第十管区海上保安本部長、元海上保安庁刑事課長/ (公財)日本国際フォーラム政治安全保障部門政策委員/神戸大学客員教授 澤井弘保氏

約 50 名の参加がありました。終了後、懇親会も和やかな雰囲気のもとで、交流の輪を広げました。

— What's NEW? —

■ UN Decade of Ocean Science (2021-2030)

国連は、さる 12 月 5 日に、UNESCO-IOC (政府間海洋学委員会) を事務局として、2020 年代の 10 年間で「国連海洋科学の 10 年」(UN Decade of Ocean Science(2021-2030)) として取り組むことにしたと発表した。https://en.unesco.org/ocean-decade

UNESCO-IOC が主導した海洋研究 10 年プロジェクトとしては、過去には、1971-80 年の IDOE (International Decade of Ocean Exploration) がある。

■ 安倍首相、施政方針演説で海洋関連施策に言及

安倍総理大臣は、1 月 22 日 (月) に開幕した第 196 回国会において施政方針演説を行い、そのなかで、海洋に関連する施策についても言及しているため、該当部分を抜粋する。

五 地方創生 (農林水産新時代)

我が国を取り巻く広大な海にも、豊かな恵みがあります。漁獲量による資源管理を導入し、漁業者による生産性向上への創意工夫を活かします。養殖業へ新規参入が容易となるよう、海面の利用制度の改革を行います。水産業改革に向けた工程表を策定し、速やかに実行に移してまいります。

(東日本大震災からの復興)

沖合では、世界初の浮体式洋上風力発電の本格稼働が始まりました。洋上風力発電の更なる導入に向けて、発電のために海域を占有することを可能とする新たな制度を整備します。

六 外交・安全保障 (地球儀を俯瞰(ふかん)する外交)
太平洋からインド洋に至る広大な海。古来この地域の人々は、広く自由な海を舞台に豊かさと繁栄を享受してきました。航行の自由、法の支配はその礎であります。この海を将来にわたって、全ての人に分け隔てなく平和と繁栄をもたらす公共財としなければなりません。「自由で開かれたインド太平洋戦略」を推し進めます。

https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/statement2/20180122siseihousin.html

■ 第 3 期海洋基本計画、3 月末にも策定へ

一 参与会議意見書、安倍総理に手交(12/18)一

去る 12 月 18 日、総合海洋政策本部参与会議の宮原耕治座長から、安倍内閣総理大臣及び江崎内閣府特命担当大臣 (海洋政策) に対し、「第 3 期海洋基本計画策定に向けた総合海洋政策本部参与会議意見書」が手交された。

同意見書の内容構成としては、主要テーマとして取り上げる事項/施策の推進に当たっての横断的・基礎的な主要テーマとして取り上げる事項/時宜を得た主要テーマ及び継続的に重要性を持つテーマとして取り上げる事項、の三区区分となっている。本文 38 頁、PT 等報告書は約 110 頁。

第 3 期海洋基本計画は、参与会議との意見交換を経て政府案が公表され、パブコメに付された後、3 月末にも閣議決定のうえ策定される運びである。

海洋に関する施策の基本方針等の概要(その1)

過去5年間の参与会議における議論を踏まえ、次期海洋基本計画に向けた各テーマ等の基本方針等は以下のとおり。

次期海洋基本計画に向けた主要テーマ

<p>1. 海洋の安全保障</p> <p>海洋の安全保障を幅広く捉え、海洋政策の観点から様々な課題に政府一丸となって取り組む。特に、①海上保安体制の強化、②海洋状況把握(MDA)体制の確立、③遠隔離島の保全・管理、を重点的施策とする。</p> <p><各施策の安全保障上の位置づけ></p> <p>1. 海洋の安全保障の確保 (海洋の安全の確保) 法執行による治安の確保、海上交通における安全対策、海洋漁業の持続発展への貢献</p> <p>2. 海洋の安全保障の実現のための基礎となる施策 (1) 基礎となる施設 海洋状況把握(MDA)体制の確立、遠隔離島の保全・管理、海洋調査、海洋観測、科学技術、研究開発、人材育成、理解増進 (2) 補完となる施設 経済安全保障、海洋環境の保全・保護</p> <p>④ 防衛に関する事項は、政府に対し、基本計画においては、原則として海洋の安全保障の確保が図られるよう措置。</p>	<p>2. 海洋の産業利用の促進</p> <p>3つの政策的意義: ①経済の安全保障、②経済成長、③海洋福祉の確保に貢献)を踏まえ、各施策に取り組む。</p> <p>1. 海洋エネルギー・資源開発の促進 ・ガタハムドレーン・海産水産物の商業化目標を明確化 ・政府の役割として「商業化・産出促進」に資する ・海上風力発電の導入促進に向けて、制度整備を推進 ・海洋産業の国際競争力の強化 ・高付加価値化・生産性の向上を通じて国際競争力を強化 ・SDP(次世代海洋資源調査技術)の成果を民間に開放 ・「海洋資源開発技術プラットフォーム」を連携、異業種連携を促進</p> <p>2. 海洋の産業利用の拡大 ・クルーズ船の寄港拡大や大学発ベンチャーなど、新しい活力を海洋産業に取り込み、市場規模を拡大</p>
<p>3. 海洋環境の維持・保全</p> <p>1. SDGs等国際的枠組みを活かした海洋環境の保全 ・SDGsの目標達成に向けて各施策と連携 ・予防的アプローチの考え方も取り入れつつ、科学的知見に基づく持続的な開発利用と保全を基本とする我が国の考えを反映</p> <p>2. 海洋環境の保全を前提とした海の恵みの持続的な享受 ・高い生産性と生物多様性が維持されている「黒潮」の経路を沿岸域の統合的管理等に積極的に活用</p>	<p>4. 海洋人材の育成等</p> <p>1. 海洋立国を支える専門人材の育成と確保 ・人材育成と技術イノベーションの連携 ・海洋分野のIoT、ビッグデータ等を扱える人材の育成・確保 ・「日本財団オーシャンイノベーションコンソーシアム」の取組強化 ・「海洋資源開発技術プラットフォーム」の取組の活用を検討 ・子どもや若者に対する海洋に関する教育の推進 ・小中学校の学習機会を踏まえ、学校における海洋に関する教育を推進</p> <p>2. ニッポン学びの海プラットフォームの下、海洋教育を牽引 ・海洋に関する国民の理解の増進 ・「海の日」制定の意義を踏まえ、「海の日」を更に活用</p>

海洋に関する施策の基本方針等の概要(その2)

施策の推進に当たっての横断的・基礎的な主要テーマ

科学的知見の充実 (海洋科学技術、海洋調査・観測)

- 海洋科学技術は、深海を始め、海洋の未知な領域の研究等による人類の知的飛躍を創出するものであり、海洋資源の開発、再生可能エネルギーの利用や海洋由来の自然災害対策、地球温暖化等の地球規模課題、国家安全保障上の課題への対応を念頭に、産官連携の下、研究開発を一層推進
- 海洋政策の実施や海洋における脅威・リスクの早期察知に有効となる我が国の海洋観測網を維持・強化
- 海洋と宇宙との連携を強化
- MDA体制の確立を旨とし、総合科学技術・イノベーション会議と連携し、Society 5.0の実現に向けた研究開発を推進

国際連携・国際協力

平和で安定した国際社会の確立を基盤とした我が国利益の实现のために、①海における法の支配、②科学的知見に基づく政策の実施、の2つの原則を基準に行動

次期計画策定に当たって考慮すべき事項

- 国民の理解に資する分かりやすい記述: 分かりやすい用語、分かりやすいメッセージ性を持った形とする
- 次期計画への目標設定: 数値目標を掲げる。困難な場合は、定性的な目標を設定
- POCA(POCA)の活用: 総合海洋政策推進事務局が中心となり、関係省庁の協力の下、施策を効果的・効率的に実施
 - <Plan> 施策群で工程表を作成(実施体制を明確に、出来る限り指標を記載)
 - <Do> 工程表に沿って、個別施策を的確に実施
 - <Check> 工程表等に関する政府の自己評価を参考実施へ報告し、評価
 - <Act> 個別施策の実施方法、工程表等の見直し

時宜を得た主要テーマ及び継続的に重要性を持つテーマ

水産政策

- 観測・研究活動の推進を通じた我が国のプレゼンスの向上
- 国際ルール形成への積極的な参画
- 我が国の国益に資する国際協力の推進

水産政策

- 資源管理の高度化と国際的な資源管理を推進
- 産業としての持続性向上と所得の増大による成長産業化
- 水産業・漁村の持つ多面的機能の十全な発揮
 など、水産基本計画等に従って取組を充実

海上物流

【外航海運】安定した海上輸送の確保、競争条件の均衡化等の国際競争力強化
 【内航海運】安定的輸送の確保、生産性向上
 【海上輸送拠点】「シーレーン」沿岸国の主要港湾の運営を含め、港湾インフラシステムの海外展開を推進

離島の振興

- 島の魅力ある資源を最大限に活用した産業振興や交通人口の拡大を推進
- 島外との連携を促進し、イノベーションを生み出す取組を充実

国際的経済力増進の推進

- 大規模の延長や他国と連携を含む遠隔離島の保全・管理
- 持続的経済水産等の有効な利用等の推進のための基礎・環境を整備
- 海産資源の活用は、これまでの議論を踏まえ、法体系的整備を定める

■ IHO/UNESCO/IOC の海底地形名小委員会、多くの日本の文豪にちなんだ海底地形名称を決定

本年1月、海上保安庁発表によれば、国際水路機関 (IHO) とユネスコ政府間海洋学委員 (IOC) が共同で設置する海底地形名小委員会 (SCUFN) が平成29年10月、イタリア (ジェノア) で開催され、日本から提案した海底地形名が34件承認された。このうち13件は夏目漱石や森鷗外等、我が国の文豪に因んだものであり、個別の地形名称に加え、既に承認済みの文豪名の海山も含め多数の海山がまとまって存在する区域について「文豪海山地形区」として新たに承認された。

同委員会は、世界の海底地形名を標準化するための学術的な委員会で、承認された地形名称は、IHO/IOC地名集に掲載され、世界中に周知される。日本の提案により今回承認された海底地形名の一覧や位置等は、海上保安庁広報資料 (下記URL) を参照：

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KIKAKU/press/2018/20180105.pdf>

- MTS Buoy Workshop
April 9-12, 2018
Ann Arbor, Michigan, USA,
<http://www.whoi.edu/buoyworkshop/2018/>
- OTC Houston
April 30- May 3, 2018
Houston, TX, USA
<http://2018.otcnet.org/>

○ OCEANS 国際会議の今後の予定

<2018年>

5/28-30 ; OCEANS'18/Techno-Ocean'18, Kobe, Japan
(<http://www.oceans18mstsieekobe.org/>)

10/22-25 ; OCEANS'18, Charleston, SC, USA

(<http://charleston18.oceansconference.org/>)

<2019年>

6/17-20 ; OCEANS'19, Marseille, France

9/16-20 ; OCEANS'19, Seattle, WA, USA

<2020年>

4/6-9 ; OCEANS'20, Singapore

10/19-22 ; OCEANS'20, Biloxi, Mississippi

<2021年>

5/24-27 ; OCEANS'21, Port, Portugal

9/20-23 ; OCEANS'21, San Diego, CA, USA

【注】毎年、秋に、OCEANS 本体 (North America) が米国の東海岸/メキシコ湾/西海岸等で順番に開催されます。2005年以降は、この OCEANS North America と並行して、奇数年には OCEANS Europe が、偶数年には OCEANS Asia/Pacific が、いずれも春に、開催されてきています。

昨年は6/19-22に OCEANS Europe が英国の Aberdeen で開催され、今年は無数年ですので OCEANS Asia/Pacific となりますが、これが OCEANS/Techno-Ocean2018 として開催されるわけです。2008年春の OTO'08 以来、10年ぶりの OCEANS と Techno-Ocean との合同開催になります。

編集メモ

年末号または新年号のつもりが、2月も終わりである。来年の話をするとう鬼が笑うとはよく聞かぬが、節分も過ぎて笑ってくれる鬼もない。おまけに連載の「温故知新」も調整つかずにお休み。MTS 日本支部執行役員のマンパワー不足を露呈した本号発行となった。しかしながら、執行役員一同、より質のよい話題・情報を会員のみなさまに定期的に提供していくという大切な使命を今一度、肝に銘じているが、では、どうしたらよいか? やはり、若手を引っ張りこむしかないでしょ、と切に思うこの頃である。(許)

国際会議情報

- Underwater Intervention 2018
February 6-8
New Orleans, LA, USA,
<http://www.underwaterintervention.com/>
- Subsea Expo 2018
February 7-9
Aberdeen, UK
<http://www.subseaexpo.com/>
- Oceanology International
March 13-15, 2018
Victoria Dock London, UK,
www.oceanologyinternational.com
- OTC Asia
March 20-23, 2018
Kuala Lumpur, Malaysia
<http://2018.otcasia.org/>
- CUCE - Canadian Underwater Conference & Exhibition
March 25-27, 2018
Vancouver, Canada
<http://www.cuce.ca/>

MTS では、アメリカにおける海洋科学技術、政策、産業に関する最新情報や研究助成、学生奨学金などの情報を提供しており、国際的なネットワーク形成に非常に有用で、特典として OCEANS 国際会議の参加登録料も会員価格になります。是非、入会をお願いいたします。

MTS 本部の website
MTS 会員登録関係

<https://www.mtsociety.org/home.aspx>

<https://www.mtsociety.org/membership/new/add.aspx>

MTS 日本支部連絡事務局 (c/o(一社)海洋産業研究会内) Tel: (03)3581-8777 Fax: 81-3-3581-8787 E-mail: mts@rio.or.jp
Nanba-Bldg., 1-19-4, Nishi-Shinbashi, Minato-ku, Tokyo 105-0003 Japan